

## 会長の時間 ●富田会長

来る 10 月 22 日は地区の特別会計支援金を活用して、「しそう自立の家」でサロンコンサートを開催します。開催に当たっては、施設関係者、サロン協会の方々、宍粟市役所の方々、神戸新聞等メディアの方々、地区関係者、そして、クラブからは喜多村社会奉仕委員長、本條直前会長を始め、すべての会員の皆様のお蔭で開催まで漕ぎ着けることができました。また、既に予想を上回る参加者が見込める状況となっており、厚く御礼申し上げます。

日本では、チェシャーホームの理念に共鳴した社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会によって、兵庫県に「しそう自立の家」、「はんしん自立の家」、「はりま自立の家」の3ヶ所で運営されています。設立に当たっては、今井鎮雄元 RI 理事が尽力されたことは前に話をさせて頂いた通りですが、ここで、チェシャーホームとは何かについて説明致します。

チェシャーホームとは、イギリス空軍退役後、慈善家となったレナード・チェシャー（1917-92）によって始められた身体の不自由な人の新しい「暮らしの場」を云います。

1948 年にチェシャーは、癌の末期で入院していた友人にイギリスのハンプシャーにある自分の家の1室を提供しました。それは冷たい病院のベッドより緑の庭を眺め、家族や友人に見守られて余生を送る方が幸せという考えからです。これが、最初のチェシャーホームとなりました。チェシャーは「誰もが助け合い、支えあって幸せな社会を作ろう」と決意し、以後、生涯をチェシャーホーム作りに捧げて来ました。

1950 年に2つ目のチェシャーホームを作り、以後、イギリスで次々とチェシャーホームが誕生しました。その後、病院や施設に収容されていた障害のある人たちが、新しい暮らしの場を求めて次々と移り住むようになった為、チェシャー一人ではすべての人を支え切れず、協力者と一緒に、「レナード・チェシャー財団」を設立し、社会福祉事業を運営していくことになりました。そして、チェシャーは晩年の 1991 年、その慈善活動が認められ、男爵に叙爵されました。現在、財団は、イギリスでは、150 以上の居宅ホームと在宅支援サービスを提供しています。また、世界では、日本、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカに至る 57 ヶ国で、320 以上のホームと在宅支援サービスを提供しています。世界のチェシャーホームは夫々独立して運営されていますが、英国のレナード・チェシャー財団を中心に世界のホームが強い絆で結ばれ、夫々が友好関係にあります。

チェシャーは 1945 年、長崎原爆投下を真近で体験し、40 年後の 1985 年に長崎を再訪したそうですが、その重い戦争体験が戦後、慈善活動のトリガーとなったのかも知れません。

物理学者アインシュタインの「私の人生の殆どの喜びを音楽から得ています」という言葉がありますが、この度、サロンコンサートを開催するに当たり、ロータリーの DEI 精神とクラシック音楽を通じて、参加者が素敵な時間を共有して頂き、共生社会への一歩となることを心より希望致します。

そして、この日はすべての参加者が主役となりますが、とりわけ、施設入居者が主役であることを忘れずに成功できればと祈念致します。

最後になりましたが、会員の皆様の引き続いてのご理解・ご協力を宜しくお願い致します。